

# ミライ研7年目へ。 飛躍と向上の年に。

令和5年1月1日。2023年が始まりました。2023年は、十二支十干でいえば「癸卯(みずのと・う)」です。陰陽五行思想によれば、干支の4番目である「卯」は「陰の木」。木は天に向かって伸びる樹木のごとく成長を表し、陰は、優しく穏やかな性質を表します。そして、「癸」は十干の最後(10番目)で「陰の水」となり、水生木(すいしょうもく)の相生(そうしょう)で良い組み合わせとなります。

ここ数年、コロナ禍で人々の活動は停滞しましたが、その中からイノベーションが生まれ、成長しようとしています。2023年は、水を得て木が育つように、新たに始めたことが成長する年になると良いなと思っています。

さて、「技術者のミライ研究委員会」は、2017年1月27日に発足・活動を開始し、6年が経過したところです。この間、各大学・高専等や青技交の協力はもちろん、日本技術士会北海道本部の会員・会友皆さまに多大なるご声援・ご助言をいただき、充実した活動を続けることができました。この場をお借りして皆さまに感謝申し上げます。

ここ3年に渡るコロナ禍においても、定型化できていた「技術士を知ろう！」以外の活動(「ミライカフェ」や「元町会館前広場活用プロジェクト with 北海道札幌工業高校」、「インフラ映えフォトコンテスト(北海道科学大学主催、ミライ研は協力)」)にも精力的に取り組むことができるようになりました。活動状況等は各号のコンサルタンツ北海道の活動レポートとして報告させていただいているとおりです。

ここで、兔にまつわる四字熟語を紹介します。

小澤 正志(おざわ まさし)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人日本技術士会北海道本部  
社会活動委員会  
技術者のミライ研究委員会 代表  
北電総合設計株式会社  
土木部 建設技術室 室長



- ①烏兔忽忽(うとそうそう)：月日が慌しく過ぎていくことの喩え。=烏兔飛走(うひとそう)
- ②鳶目兔耳(えんもくとじ)：よく見える鳶のような目と、よく聞こえる兔のような耳。転じて、情報収集能力の高い人のこと。
- ③亀毛兔角(きもうとかく)：亀に毛がなく、兔に角がないように、この世にあり得ないもの、実在するはずがない物事の喩え。
- ④金烏玉兔(きんうぎょくと)：太陽と月。または歲月や時間のこと。
- ⑤玉兔銀蟾(ぎょくとぎんせん)：夜空に浮かぶ月の別名。
- ⑥犬兔之争(けんとのあらい)：無用の争いをして第三者に利益を与えること。  
その他、意味については割愛しますが、⑦狡兔三窟(こうとさんくつ)、⑧狡兔走狗(こうとそうく)、⑨狐死兔泣(こしときゅう)、⑩獅子搏兔(ししはくと)、⑪子墨兔毫(しばくとごう)、⑫守株待兔(しゅしゅたいと)、⑬処女脱兔(しよじょだつと)、⑭兔起鶻落(ときこつらく)、⑮兔起鳧拳(ときふきよ)、⑯白兔赤烏(はくとせきう)、⑰飛兔竜文(ひとりゅうぶん)、などたくさんあります。

そこで、四字熟語を使った挨拶文を考えました。『今年も烏兔忽忽な1年になることは間違いありません。鳶目兔耳となり、兔起鳧拳のごとく、いろいろなことにチャレンジし、獅子搏兔で対応して参りたいと思います。』

最後に、皆さまや社会にとって、2023年がさらに良い年になるよう祈念致します。